

第66号 発行日 平成25年8月

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
ごさいます。

先月、横手市内で脳卒中地域医療連携協議会が開催され、大仙・横手・湯沢地域の医師、看護師、理学療法士、ケアマネージャー等約40名が参加しました。講演では、脳卒中と高血圧の関連性について、長年のデータ分析に基づいた貴重な報告がありました。

今回は、連携協議会の一部をご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

秋田道沿線地域医療連携協議会第11回集会及び学術講演会

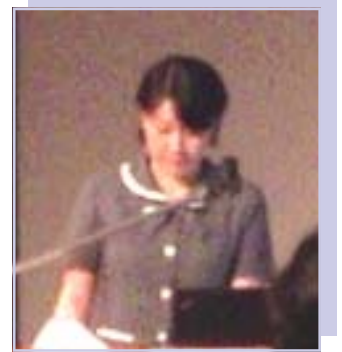
平成25年7月12日(金) 横手セントラルホテル

「増田地域における脳卒中予防事業について」

基調講演

横手市増田地域局 副主査 後藤 ひとみ さん

増田地域において、昭和60年度から取り組まれている脳卒中予防事業について発表がありました。住民に対する高血圧管理の成果として、脳梗塞発症者の平均年齢が、昭和61年度と平成24年度では、12歳高いことがわかりました。また、横手平鹿の地域別に見ても、増田地域が3歳以上高いことがわかりました。増田町の長期的な取り組みと成果に、会場から讃頌の声が多くあがりました。



「脳卒中 医療の原点と医療の本質」

特別講演

由利組合総合病院 保健福祉活動室

副室長 鈴木 一夫 先生



秋田県脳卒中登録のデータをもとに、血圧値が上昇すると、脳卒中の発症率が正比例に高くなると報告がありました。また、心房細動の罹患者は、脳卒中の発症率が6倍高くなることから、健診の間診で心房細動の徴候の有無を把握することが重要であると述べられました。高血圧予防と心房細動の早期発見・治療が、脳卒中予防のカギとなることを改めて認識しました。

実務者会議

脳卒中パスを利用して、リハセンへ転院された患者さんの事例検討を行い、転院目的を明確にするための情報提供のあり方や、転院が延期になった場合の精神的フォロー等について話し合いました。次回の会議では、パスの効果を評価するため、患者さん・ご家族へのアンケート調査について検討する予定です。